

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変時や事故発生時に備えて、全職員が迅速な対応ができ、統一した介護ができること。	○急変時や事故発生時における連絡網を熟知し、マニュアルに沿った対応ができること。 ○事故防止や感染症予防などに対する確かな知識や技能などを身につけておくこと。	・急変時や事故発生時のためのマニュアルの確認や読み合わせをおこなうとともに、事故を防止するための危険個所の調査や、感染症予防のための研修などをおこなう。 ・緊急連絡網の整備・更新をたえず行い、各人の役割分担を明確にして、一目でわかるようにフローアに掲示をする。	12ヶ月
2	2	地域とのつながりを密にし、地域の社会資源の発掘に努めること。	○地域の行事や町会の会議などに積極的に参加して、地域の人に施設の存在をアピールするとともに地域の情報を収集すること。 ○地域の人に施設の行事などに参加してもらったり、施設を利用してもらったりして施設に対して親近感をもってもらうこと。	・ふれあい喫茶や夏祭りなど地域の行事に参加することで施設や利用者様を知っていただくとともに、地域の情報などをキャッチし、利用者の役に立つことを模索する。 ・例えば消火訓練などに地域から参加してもらい、地域の中で施設が役に立つことを知っていただくようにする。	12ヶ月
3	48	利用者の生活リハビリをもっと活性化して、心身の健康を保つようにすること。	○利用者の個々人の生活リハビリの領域を広げて、充実した共同生活が送れるようにすること。○ボランティアなど、外部の人の参加も含め、心地よい刺激が得られるよう配慮すること。	・利用者個々人の生活歴を把握し、それに見合ったクラブを検討したうえで、ボランティアビューローなどとコンタクトを取り、ボランティアを要請する。 ・個々人の適性を見極め、決して無理強いをしないように気をつける。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。